

分野名：学社連携・融合

飯塚市熟年者マナビ塾の取り組み

～児童の健全育成、学校活性化、特色ある学校づくりに資する～

飯塚市生涯学習課 係長 杉内 郷

1. 事業名

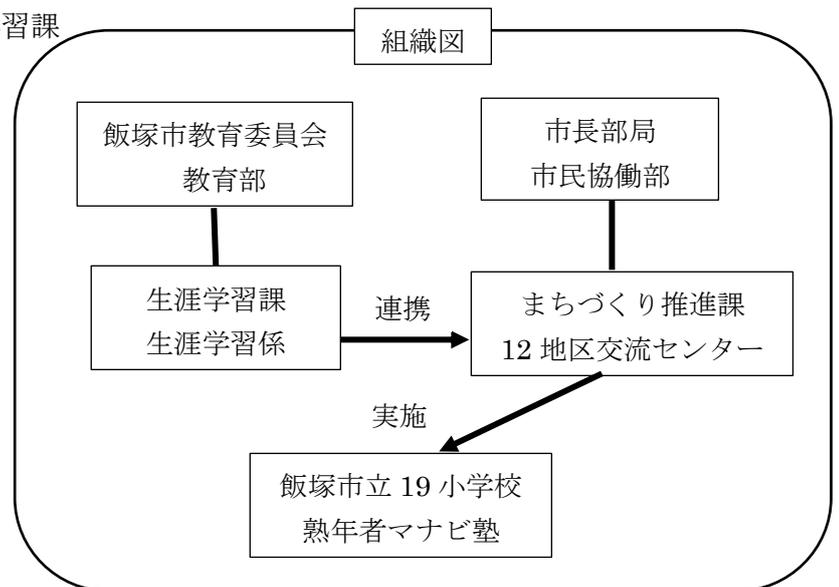
飯塚市熟年者マナビ塾

2. 事業の目的

地域の熟年者（高齢者）の力を小学校の教育現場で活かすことにより、熟年者の生きがいや居場所を作り出すと共に、児童の健全育成、学校の活性化、特色ある学校づくりに資することを目的とする。

3. 事業の主体

飯塚市教育委員会教育部生涯学習課



4. 連携・協力機関・団体等

飯塚市教育委員会教育部学校教育課・市長部局市民協働部まちづくり推進課
・12地区交流センター・飯塚市立19小学校

5. 事業予算

令和6年度予算額需用費として 105,000円 計上

内 訳	消耗品費	65,000円
	燃料費	20,000円
	修繕費	20,000円

6. 実施に至る経緯

少子高齢化や核家族化をはじめとする著しい社会変化の中で、地域コミュニティの希薄化、高齢者の孤立、児童の実体験不足、地域・家庭の教育力の低下、学校の閉鎖性や学校現場に過度の負担がかかっている現状など様々な課題に対して、教育行政の立場から対応するために、熟年者・児童・学校を結びつけた事業を新たに実施した。

7. プログラム作成の視点

事業の関係者・対象者（①事業に参加する熟年者、②熟年者と交流する児童、③活動拠点を設置する学校）にそれぞれ利点があることと、学校の余裕教室などを開放し活動拠点を設置するため、学校の負担が増加せず、将来的には負担を軽減できるような取り組みとなることを念頭に置きプログラムを作成した。

8. 事業の内容

週に一回、平日の午前中に小学校の余裕教室などに地元の熟年者が登校し、学校の授業時間に合わせて、学校支援や自主学習を行う。

受講料（授業料）は毎週1回1人100円 活動経費は受益者負担
資料代や材料費は別途徴収し、各塾の会計担当者が保管

基本的な流れについては以下の【モデルケース】のとおりである。

【モデルケース】

朝の教室清掃

↓

一時限目（8：50～）脳活性化や身体機能維持のプログラムを実践（自主学習）

↓

二時限目（9：40～）塾生同士が特技を教えあい、趣味教養を深める学習（自主学習）

↓

三時限目（10：45～）学校の依頼により学校支援ボランティアに従事（学校支援）

↓

帰りの清掃

※学校支援の依頼状況などにより、時間割や活動内容は柔軟に変更される。

※学校支援ボランティア活動を最優先とし、一時限目・二時限目の自主学習の時間に、学校支援の準備や事前学習を行うこともある。

※活動の内容は【学校支援ボランティア】と【自主学習】の2種類があり、内容については以下のとおりである。

【学校支援ボランティア】

「教育活動支援」

・遠足の安全管理や交通指導・体力測定の記録員・切り絵指導・かけ算九九の聞き取り・裁縫指導・郷土の歴史や昔の暮らしについての語りなど

「環境整備支援」

・花壇の手入れ・野菜の栽培・校内清掃・植木の剪定など

【自主学习】

「頭と体の機能を維持する学習」

・百マス計算・朗唱・漢字の書き取り・健康体操・ストレッチなど

「趣味・教養を広げる学習」

・絵手紙づくり・マスコットづくり・切り絵づくり・折り紙・学習支援の準備など

9. 事業の成果

事業の対象者である【熟年者】【児童】【学校】それぞれに利点があり、下記のような成果をあげている。

【熟年者】は、新たな仲間や活動目標を手に入れると共に、児童との交流により、生きがいと必要とされている充実感を得ている。また、健康の維持・増進につながる。

【児童】は、生活規範や知恵など「生きる力」を熟年者との交流で身につけ、成長している。

【学校】は、熟年者を学校支援ボランティアとして活用することにより、授業の効率や教育効果が上がると共に、不審者対策など安全管理面でも向上している。

10. 今後の課題

元気な高齢者は、働くことができる社会へと変化していくなか、参加者の固定化・高齢化が見られ、新規参加者も少なく参加者数も減少傾向を示している。また、フレイル予防など高齢者介護予防教室や公民館・交流センターサークルなど受動的な事業活動との競合などがあることから事業をより一層魅力のあるものとするため、事業周知を図り学校・交流センターとの連携を密にしながら事業展開していく必要がある。

問合せ先

〒820-0041 飯塚市飯塚14番67号

飯塚市中央公民館（イイツカコミュニティセンター）

TEL 0948-22-3274 FAX 0948-22-3609

mail : shougai@city.iizuka.lg.jp